

## 技術提案を求める課題、審査方法等について（案）

第3回関係閣僚会議で決定された「再検討に当たっての基本的考え方」に基づき、技術提案書を求める課題と審査方法を検討する。

### ＜技術提案書審査＞

**必須評価項目**：要求水準書の基礎事項（施設規模や工程、事業費等）を満たしているか確認する。

**加算点評価項目**：発注者が特に重視するコストや工期の縮減、バリアフリーへの配慮などについて評価する。

※ 加算点評価項目の技術提案について、採否を検討し、採用した提案は契約図書に位置づけることとする。

### 1. 必須評価項目

事業提案書の内容のうち、下記の確認事項に抵触する場合は失格とする。

求める技術提案	技術提案として求める内容	確認事項
施設計画※	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設計画の概要</li> <li>配置図（外構図を兼ねて作成）</li> <li>延床面積・客席数</li> <li>簡略な平面図（主要階）</li> <li>簡略な立面図（1面以上）</li> <li>簡略な断面図（1面以上）</li> <li>日影図（等時間日影図）</li> </ul>	事業計画地内にて配置計画がされていること。 延床面積や客席数が要求水準を満たすこと。 施設規模が関係法令・都市計画へ適合していること。 建物の屋根が要求水準を満たすこと。
工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体工程表、施工計画</li> <li>事業期間を遵守するための具体的方策（設計、施工共に。）（資材・労務者の需給逼迫状況へ対応するための調達計画を含め提案する）</li> </ul>	建物の完成期限が平成32年4月30日以内となっていること。
事業費	<ul style="list-style-type: none"> <li>総事業費（設計費、工事費、工事監理費、施工技術検討費の別に記載）</li> <li>事業費縮減のための手法</li> <li>工事費の上限内に収める事業費管理手法</li> </ul>	総事業費が発注者の指定する上限額未満となっていること。

※施設計画については、技術提案の一部が確認事項をみたしていない場合でも、技術対話により確認事項を満たす見込みが高い場合については、必須項目を充足しているとみなす。

### 2. 加算点評価項目

求める技術提案	技術提案として求める内容	評価事項	配点
業務の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備にあたっての基本的な考え方（重視すべき事項）</li> <li>プロジェクト・マネージャーの下、コスト、工期を管理して事業を進めるマネジメントの実施方針</li> <li>設計段階、工事段階の業務の実施方針</li> <li>設計段階、工事段階について、チーム編成、各担当者の能力や実績・資格</li> </ul>	業務内容の理解度（整備すべき施設や、工期遵守・事業費上限額遵守を含め、本事業実施における重要事項の理解度） 重要事項を確実に担保し、確実に本事業を遂行するための取組体制、品質管理の考え方、配慮事項等の妥当性	
建設費の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>総事業費、算出の考え方</li> <li>主要工種（例：スタンド、屋根等）のコスト計画に関する考え方</li> <li>事業期間を通じた、建設費抑制のためのコスト管理手法の考え方</li> <li>コスト縮減の確実性を高めるための工夫</li> </ul>	総事業費の抑制幅及び、建設費縮減策の確実性	
工期短縮	<ul style="list-style-type: none"> <li>工期を短縮するための具体的方策、完成期限及び工程計画（設計、施工共に）</li> <li>主要工種（地下躯体、スタンド、屋根等）の工期短縮に関する考え方</li> <li>事業期間を通じて期限内に確実に完成させるための工程管理計画の考え方</li> </ul>	工期の短さ及び工期短縮策の確実性	
維持管理費縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理費を縮減させるための設計における具体的方策</li> <li>施設の将来可変性を持たせるための設計における具体的方策</li> </ul>	提案の的確性、独創性、実現性について総合的に評価	
バリアフリー計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界最高レベルのバリアフリー環境を実現するための具体的方策</li> </ul>		
日本らしさに配慮した施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本らしさに配慮した施設整備の具体的方策</li> <li>日本文化の発信としての木材利用を行う具体的方策</li> </ul>		
景観・地球環境等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>神宮外苑地区の環境や景観等に調和するとともに、スポーツクラスターの中核にふさわしい景観を形成するための具体的方策、及びそれを表現するイメージパース。</li> <li>施設や地域の特性を考慮した環境負荷の抑制、自然エネルギーの活用に関する技術的手法</li> </ul>		
合 計			

評価項目ごとに、各項目の配点に5段階の評価に応じた計数を乗じたものを点数とする。

$$\text{配点} \times \text{係数} = \text{点数}$$

但し、建設費の縮減、工期短縮については、以下の評価基準を用いることとする。

評価	係数
A 特に優れている	1.0
B 優れている	0.8
C やや優れている	0.6
D 普通である	0.4
E やや劣る	0.2
F 評価無し（記述無し）	0

建設費の縮減

A 相当な建設費の縮減の実現性がある。  
 B ある程度の建設費の縮減の実現性がある。  
 C 多少の建設費の縮減の実現性がある。  
 D 発注者が指定する総事業費で行う。

工期短縮

A 相当な工期短縮の実現性がある。  
 B ある程度の工期短縮の実現性がある。  
 C 多少の工期短縮の実現性がある。  
 D 発注者が指定する工期で行う。

※ 競争参加者からヒアリングを行った後、必要に応じ、技術提案の改善を求めることとする（技術対話）。  
 例) 技術提案に、当該事業における有用性等が不明確な事項がある場合、提案内容の明確化を求める。  
 新技術・新工法の実現性等を確認するための資料が不足している場合、追加資料の提出を求める。  
 全技術提案者に、一律に改善を要請する事項がある場合、要請する。